

## 進捗状況の概要

アクティブラーナーの育成に向け、全学共通科目を中心に以下の(1)から(4)の4つの領域の事業を推進し、その成果を学内外で発表した。

### (1)授業改革：

全学共通の1年次必修科目「シチズンシップ」で、予習復習を課し、ペアワークやレポートで調べたことを発表する授業形態をとり、学生の授業評価で改善点を検討した。また、全学共通の1年次必修科目「仏教の人間観」「ICT演習」で、授業外学習時間を増やして基礎学力を修得させるために、定期的にレポート課題やPC関係の演習の宿題を課して、その採点結果を学生にフィードバックした。本学キャリア形成学科で1、2年次必修のプロジェクト科目で、チーム協働、議論、製菓のプレゼン等のPBLによる授業実践を行い、アクティブラーナーのきっかけになる授業であることを検証した。

### (2)授業外学習支援：

全学共通の1年次必修科目「仏教の人間観Ⅰ・Ⅱ」「シチズンシップ」「数と計算Ⅰ・Ⅱ」「ICT演習」などのパイロット授業科目を中心に、学習ステーションに教職員と学生チューターが常駐し、また情報教育センターに教員が定期的に常駐して、授業外学習支援を行った。事前に、専任教員が学生チューターに学習支援の内容・方法を教示した。学習ステーションでは、ミニ講義、授業とミニ講義を録画したDVDの視聴、レポートの下書の添削、個別指導、グループ学習会などの学習支援を行った。学習ステーションへの年間合計の延べ訪問者数は、前年度の18,053人と比較して、平成27年度は20,417人と1.13倍増加した。前期の「ICT演習Ⅰ」では、宿題以外の自主学習課題を課すことで、常駐する教員への延べ訪問相談件数が、前年度の142人から293人と2.1倍増加した。

### (3)ルーブリック等による学習行動と学習成果の可視化：

「仏教の人間観」で、レポート作成に必要な学習行動を学生が自己評価するセルフチェックシートを使って、学習行動を喚起・促進させた。「プロジェクト入門」で、「チームにおけるコミュニケーション」「企画するカールブリック」「基礎的プレゼンテーション能力」の3種のルーブリックを作成し、学生のセルフモニタリング（自己観察）のツールとして活用した。授業実践を踏まえ、年度末に7つの汎用力「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」「コンピュータリテラシー」「情報活用力」「文献読解力」「ノートテイキング力」「レポート作成力」に関するルーブリックあるいはセルフチェックシートを定式化した。

### (4)アクティブラーナー度を測定するためのアセスメント：

前年度の調査を踏まえて集積したアクティブラーナー(AL)水準をアセスメントする項目を選定し、質問票を開発した。本学の3つの学科・専攻の全学年で、AL水準に関する質問紙調査を実施した。調査分析の結果、アクティブラーナー育成には「基礎学力」「学習マネジメントスキル」「学びの動機づけ」の3つが重要であり、これらの評定値から個別学生のAL水準値を計算した。各学科・専攻、各学年の比較分析した結果を、学内報告会、FD委員会、看護学科会議で共有・議論した。個々の学生にフィードバックして学習行動を喚起・促進させる方向で、次年度取組方針を決めた。

### (5)学外へのAP事業の成果報告と外部評価：

平成27年度のAP事業成果をまとめた年次報告書を作成し、各テーマのAP採択の大学を含む学内外の関係者に郵送・配布した。また、司会は学生で、授業外学習に関する学生のディスカッションもプログラムに入れたAP成果報告会を開催し、学内外の関係者に成果を周知した。AP採択大学1校から視察申し出があり、互いのAP事業の進捗を説明し合い、今後の展望等について議論した。2名の有識者を本学に招いて、平成27年度AP事業の外部評価会議を行い、本学のAP事業について次年度以降に向けた改善点等の指摘を受けた。